



重要な高度医療を担っている松本病院

**問** 大変大きな課題で、即答できないが、国立病院機構とも場所の提供まで含めた支援のありかたを話し合う機会は持っている。7万人の市としての責任の範疇を考えながら私的には当然財政支援をしても継続させたい考えだ。

**答** 制度内容の説明が必要では

**問** 後期高齢者医療制度開始に向け、市が行っている説明会の内容は不十分。制度で、75歳以上の医療が切り捨てられることについても説明すべきではないか (鈴木)

**答** 情報が来ていない。高齢者特有の慢性疾患についての包括診療、在宅医療の充実や終末期医療での家庭での看取りなどが盛り込まれているとの報道がある。今後情報提供できるように保険者である広域

連合と相談していく。

**問** 国保の繰越金が3億円ほどあるが、引き下げができるのではないか (鈴木)

**答** 平成20年度は後期高齢者医療制度との関係で、ある一定の予備費が必要。21年度に向けて国保の見直し検討を行っていく。その中で、税額、繰入金のある方も含め検討していく。

## 地域ブランド構築の考え方

◆(財)塩尻・木曾地域地場産振興センターについて

**問** 借金返済は可能か (中村)

**答** 19年度末で70万円の赤字を見込んで。行政からの補助金も半減となり事業収益の急増は期待できないため、返済は先延ばしするしかない。

**問** 漆器産業の衰退に歯止めがかかっておらず、街の仕事や人の流れが減っており、施設の有効性が認められない。返済計画の見直し、収益事業の公益法人改革を行い、本来の目的に合った計画を作成すべ



経営状況から見て緊急な改革が求められる塩尻・木曾地域地場センター

きだがどうか (中村)

**問** 指摘の通りである。返済計画見直しはもちろん、漆器販売に頼らない地場産センターの収益事業の改革プランを5年以内に作るよう指導する。

◆分水嶺について

**問** 全国でも有数な分水嶺を有する地域なので、地域ブランド化の考えは (五味)

**答** 地域ブランドとなり得るよう行政として支援していく

◆塩尻ワインについて

**問** 首都圏における塩尻ワインブランドの知名度アップを今後も継続していくか (五味)

**答** 首都圏への「攻めのイベント」と位置づけ、継続的に開催していく。

## 公共建築物のあり方は

◆交流センター駐車場見直し

**問** 60台の平面駐車場確保で、小学校の体育館に匹敵する費用の必要な立体通路計画は、見直すべきではないか (古厩)

**答** 年間40万人利用を見込んでいる。子育て支援施設でもあり、横断の安全のため必要。費用対効果から見ても、市の実質負担はその1/3〜1/4である。

◆体育館は今年度中に目処

**問** 体育館の要件、場所選定に何時頃方向出すか (古厩)

**答** 全世代が運動に親しむ健康づくりの施設とし、近年は防災拠点としての位置づけも重要。20年度中に方向出す。

◆開発誘導エリアの現状は

**問** 平成19年度から、利用計画整備計画に関する調査を実施したが現状は (古井)

**答** 今後の計画的な開発を調整・誘導するための都市計画に関する基礎調査を実施したものです。